

## 線形代数学第2 - 中間試験問題 < 解答例 > -

情報システム工学科1年生 平成19年度後期 - 2007.11.28 -

1. 次の問いに答えよ.

- (a) 直線  $y = 3x$  上で, 座標点  $(1, 1)$  への距離が最小となる点の座標を求めよ.
- (b) 平面  $x + 2y - z = 0$  上で, 座標点  $(1, 1, 0)$  への距離が最小となる点の座標を求めよ.

< 解答例 >

- (a) 直線  $y = 3x$  上の一つのベクトルを  $\mathbf{a} = [1, 3]^T$  とし, 座標点  $(1, 1)$  に対するベクトルを  $\mathbf{b} = [1, 1]^T$  とするとき, 求める座標はベクトル  $\mathbf{b}$  からベクトル  $\mathbf{a}$  への射影  $\mathbf{p}$  となる.

$$\mathbf{p} = \frac{\mathbf{a}^T \mathbf{b}}{\mathbf{a}^T \mathbf{a}} \mathbf{a} = \frac{4}{10} \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2/5 \\ 6/5 \end{bmatrix} \quad (1)$$

これより, 求める座標は  $(2/5, 6/5)$  となる.

- (b) 座標点  $(1, 1, 0)$  に対応するベクトル  $\mathbf{b} = [1, 1, 0]^T$  から平面  $x + 2y - z = 0$  への射影が求める座標を表している. 平面を張るベクトルは  $x + 2y - z = 0$  を満たす  $x, y, z$  を要素するベクトルである. ここでは,  $\mathbf{a}_1 = [1, 0, 1]^T$ ,  $\mathbf{a}_2 = [0, 1, 2]^T$  とする.  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$  を列ベクトルとする行列を  $\mathbf{A}$  とすると, 平面  $x + 2y - z = 0$  は  $\mathbf{A}$  の列空間となる.  $\mathbf{b}$  から  $\mathbf{A}$  の列空間への射影は次式で求まる.

$$\begin{aligned} \mathbf{p} &= \mathbf{A}(\mathbf{A}^T \mathbf{A})^{-1} \mathbf{A}^T \mathbf{b} \quad (2) \\ &= \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \left( \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \right)^{-1} \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \frac{1}{6} \begin{bmatrix} 5 & -2 \\ -2 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} 1/2 \\ 0 \\ 1/2 \end{bmatrix} \quad (3) \end{aligned}$$

従って、求める座標は  $(1/2, 0, 1/2)$  である。この座標が  $x + 2y - z = 0$  上にあることが確認できる。また、 $b - p$  が平面、すなわち、 $a_1, a_2$  に直交している（内積=0 となる）ことも確認できる。

2. 次の行列  $A$  に対して、以下の問いに答えよ。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 2 \\ 0 & -1 & -1 \end{bmatrix}$$

- (a)  $A^T A$  を求めよ。これが、対称行列となっていることを確かめよ。
- (b)  $A$  と  $A^T A$  の階数  $r$  を求め、これらが等しいことを示せ。
- (c)  $A$  と  $A^T A$  の零空間が等しいことを確かめよ。
- (d)  $A^T A$  の逆行列は存在する / しないのいずれか。理由も述べよ。
- (e)  $A^T A$  の逆行列が存在する条件を示せ。
- (f) 上記の条件を満たす  $A$  の  $3 \times 2$  行列の例を示し、 $A^T A$  の逆行列を求めよ。

< 解答例 >

(a)

$$A^T A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 2 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 2 \\ 0 & -1 & -1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 & 0 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \\ 3 & 3 & 6 \end{bmatrix} \quad (4)$$

上式が対称行列であることが分かる。

(b)  $A$  に対してガウスの前進消去を行う。

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ -1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 2 \\ 0 & -1 & -1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & -1 & -1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \quad (5)$$

これより、 $A$  の階数は  $r = 2$  である。さらに、 $A^T A$  についてもガウスの

前進消去を行う．

$$A^T A = \begin{bmatrix} 3 & 0 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \\ 3 & 3 & 6 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 3 & 0 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 3 & 0 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \quad (6)$$

これより， $A^T A$  の階数も  $r = 2$  である．

(c)  $A$  と  $A^T A$  の零空間を求める．前の設問でガウスの前進消去まで行っているので，その結果を利用する．まず， $Ax = 0$  は次のようになる．

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (7)$$

$u, v$  を基底変数， $w$  を自由変数とする．上式は

$$u + w = 0 \quad (8)$$

$$v + w = 0 \quad (9)$$

となるから， $u = -w, v = -w$  であり，一般解は

$$\mathbf{x} = w \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (10)$$

となる．すなわち， $A$  の零空間は 1 次元で基底が  $[-1, -1, 1]^T$  である．

$A^T A x = 0$  の一般解も同様に求まる．

$$\begin{bmatrix} 3 & 0 & 3 \\ 0 & 3 & 3 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (11)$$

$u, v$  を基底変数， $w$  を自由変数とする．上式は

$$u + w = 0 \quad (12)$$

$$v + w = 0 \quad (13)$$

となるから， $u = -w, v = -w$  であり，一般解は

$$\mathbf{x} = w \begin{bmatrix} -1 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (14)$$

となる．すなわち， $A^T A$  の零空間は 1 次元で基底が  $[-1, -1, 1]^T$  である．  
これは， $A$  の零空間と同じである．

- (d)  $A^T A$  の逆行列は存在しない．理由は，階数  $<$  行，列の数であり，全ての行ベクトル，あるいは，列ベクトルが線形独立ではなく， $A^T A$  は特異行列となり，逆行列は存在しない．
- (e)  $A^T A$  の逆行列が存在する条件は「 $A$  の列ベクトルが全て線形独立であること」である（「 $A^T A$  の階数 = 行及び列の数」と答えても良い．しかし，次の設問のためには，先に述べた条件が必要となる．）
- (f) 列ベクトルが全て線形独立な  $3 \times 2$  行列の例を示せばよい．

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix} \quad (15)$$

$$A^T A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \quad (16)$$

$$(A^T A)^{-1} = \frac{1}{3} \begin{bmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} \quad (17)$$

3. 次の連立方程式の最適な最小 2 乗解を以下の問いに従って求めよ．

$$\begin{aligned} u + v &= 1 \\ v - w &= 0 \\ u + w &= 1 \\ -v + w &= -1 \end{aligned}$$

- (a) 上の連立方程式を行列とベクトルを用いて表せ．これを， $Ax = b$  とする．
- (b) 最小 2 乗解を求める方程式を求めよ．これを  $\hat{A}x = \hat{b}$  とする．
- (c) 式 の一般解を求めよ．これが，最小 2 乗解である．
- (d)  $\hat{A}$  の零空間を求めよ．次元と基底を求める．
- (e) 式 の一般解を  $x = x_r + x_n$  としたときの  $x_r$  を求めよ．但し， $x_r$  は  $\hat{A}$  の行空間にある成分， $x_n$  は零空間にある成分である． $x_r$  が最適な最小 2 乗解である．
- (f)  $x_r$  が式 を満たすことを示せ．

(g)  $x_r$  が零空間に直交することを示せ .

< 解答例 >

(a) 連立方程式を  $Ax = b$  の形で表す .

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & -1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \quad (18)$$

(b) 最小 2 乗解を求める方程式は  $A^T Ax = A^T b$  であるから ,

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & -1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & -1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & -1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \quad (19)$$

$$\begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & -2 \\ 1 & -2 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix} \quad \hat{A}x = \hat{b} \dots \quad (20)$$

(c) 前の設問における方程式の一般解を求める . まず ,  $\hat{A}x = 0$  の一般解を求める .

$$\begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & -2 \\ 1 & -2 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (21)$$

係数行列に対してガウスの前進消去を行う .

$$\begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & -2 \\ 1 & -2 & 3 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 5/2 & -5/2 \\ 0 & -5/2 & 5/2 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 5/2 & -5/2 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \quad (22)$$

方程式は次のようになる .

$$\begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 5/2 & -5/2 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (23)$$

従って,  $u$  と  $v$  を基底変数に,  $w$  を自由変数とする. 上式から,

$$2u + v + w = 0 \quad (24)$$

$$v - w = 0 \quad (25)$$

となるので,

$$v = w \quad (26)$$

$$u = -w \quad (27)$$

を得る. 従って,  $\hat{A}\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解は

$$\mathbf{x} = w \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (28)$$

となる. さらに,  $\hat{A}\mathbf{x} = \hat{\mathbf{b}}$  の特殊解は式 (20), または, この式でガウスの前進消去を行った次式で  $w = 0$  において求められる.

$$\begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 0 & 5/2 & -5/2 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (29)$$

方程式は

$$2u + v = 2 \quad (30)$$

$$\frac{5}{2}v = 1 \quad (31)$$

となるから,  $v = 2/5, u = 4/5$  を得る. 従って, 一般解は次のようになる.

$$\mathbf{x} = w \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 4/5 \\ 2/5 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (32)$$

- (d)  $\hat{A}\mathbf{x} = \mathbf{0}$  の一般解は式 (28) で与えられるから,  $\hat{A}$  の零空間は次元が 1 次元で, 基底が  $[-1, 1, 1]^T$  である.
- (e) 前の設問における一般解のうち,  $[-1, 1, 1]$  は零空間のベクトルであるから  $x_n$  に含まれる. 特殊解  $[4/5, 2/5, 0]$  の内, 行空間に含まれる成分を求める. その為に,  $[4/5, 2/5, 0]$  ( $x_s$  とする) から  $[-1, 1, 1]$  ( $a$  とする) への射影 ( $p$  とする. これは零空間の成分) を求めて, それを  $x_s = [4/5, 2/5, 0]$

から引く .

$$\mathbf{p} = \frac{\mathbf{a}^T \mathbf{x}_s}{\mathbf{a}^T \mathbf{a}} \mathbf{a} = -\frac{2}{15} \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (33)$$

$$\mathbf{x}_r = \mathbf{x}_s - \mathbf{p} = \begin{bmatrix} 4/5 \\ 2/5 \\ 0 \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} 2/15 \\ -2/15 \\ -2/15 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 10/15 \\ 8/15 \\ 2/15 \end{bmatrix} \quad (34)$$

(f) 式 (20) に前の設問で求めた  $\mathbf{x}_r$  を代入して成り立つことを確かめる .

(g) 零空間は  $\mathbf{a} = [-1, 1, 1]^T$  で張られるから ,  $\mathbf{x}_r$  と  $\mathbf{a}$  が直交することを確認する . 具体的には , これらの内積=0 を確認する .

$$\mathbf{a}^T \mathbf{x}_r = \begin{bmatrix} -1 & 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 10/15 \\ 8/15 \\ 2/15 \end{bmatrix} = 0 \quad (35)$$

4. 線形独立なベクトル  $\mathbf{a}_1 = [1, -1, 0]^T$ ,  $\mathbf{a}_2 = [1, 0, 1]^T$ ,  $\mathbf{a}_3 = [0, 1, -1]^T$  を互いに直交するベクトル  $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$  に変換せよ (ベクトルの長さを 1 にする必要はない) . さらに , それらが互いに直交することを確認せよ . (参考) Gram-Schmidt の直交化法を利用する .

< 解答例 >

$$\mathbf{v}_1 = \mathbf{a}_1 = [1, -1, 0]^T \quad (36)$$

$$\begin{aligned} \mathbf{v}_2 &= \mathbf{a}_2 - \frac{\mathbf{v}_1^T \mathbf{a}_2}{\mathbf{v}_1^T \mathbf{v}_1} \mathbf{v}_1 \\ &= \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} - \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1/2 \\ 1/2 \\ 1 \end{bmatrix} \end{aligned} \quad (37)$$

$$\begin{aligned} \mathbf{v}_3 &= \mathbf{a}_3 - \frac{\mathbf{v}_1^T \mathbf{a}_3}{\mathbf{v}_1^T \mathbf{v}_1} \mathbf{v}_1 - \frac{\mathbf{v}_2^T \mathbf{a}_3}{\mathbf{v}_2^T \mathbf{v}_2} \mathbf{v}_2 \\ &= \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} - \frac{-1}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{bmatrix} - \frac{-1}{3} \begin{bmatrix} 1/2 \\ 1/2 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2/3 \\ 2/3 \\ -2/3 \end{bmatrix} \end{aligned} \quad (38)$$

さらに、 $v_1, v_2, v_3$  が互いに直交することを確認する．具体的には、これらのベクトルの内積を計算し、それが零となることを確認する．

$$v_1^T v_2 = 0 \quad (39)$$

$$v_1^T v_3 = 0 \quad (40)$$

$$v_2^T v_3 = 0 \quad (41)$$

5. 次の行列式を求めよ．行列の性質 1~10，または行列式の適当な公式を用いて計算する．

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 & 1 \\ -1 & 0 & -1 & 2 \\ 1 & -1 & 0 & 1 \\ 0 & -1 & 3 & -2 \end{bmatrix} \quad B = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ -1 & 2 & 0 & 0 \\ 4 & -3 & 5 & 0 \\ 6 & -1 & 3 & -1 \end{bmatrix}$$

$$C = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 1 \\ -1 & 0 & 1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & -1 & 0 \end{bmatrix} \quad D = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 1 & 0 \\ 2 & 5 & 7 & 1 \\ -1 & -2 & -3 & 1 \end{bmatrix}$$

< 解答例 >

$A$  の行列式は、第 1 行と第 3 行が等しいので、零である．

$$\det A = 0 \quad (42)$$

$B$  は 3 角行列であるから、行列式は対角要素の積となる．

$$\det B = 1 \times 2 \times 5 \times (-1) = -10 \quad (43)$$

行列  $C$  は特徴がないので、ガウスの前進消去により、3 角行列に変形する．

$$C = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 1 \\ -1 & 0 & 1 & -1 \\ 2 & -1 & 0 & 1 \\ 1 & 2 & -1 & 0 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 1 \\ 0 & -2 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$



これより,

$$\det \mathbf{C} = 1 \times (-2) \times 1 \times 1 = -2 \quad (44)$$

行列  $\mathbf{D}$  は第 1 行, 第 2 行で零の要素が多いので余因子展開を用いる.

$$\det \mathbf{D} = 1 \times D_{12} = 1 \times (-1)^{1+2} \det \mathbf{M}_{12} \quad (45)$$

$$\det \mathbf{M}_{12} = 1 \times (-1)^{1+2} \begin{vmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 1 \end{vmatrix} = -3 \quad (46)$$

$$\det \mathbf{D} = -1 \times (-3) = 3 \quad (47)$$

6. 行列  $\mathbf{A}$  の逆行列を余因子行列と行列式を用いた次の公式により計算せよ.

$$\mathbf{A}^{-1} = \frac{\text{adj } \mathbf{A}}{\det \mathbf{A}} \quad \mathbf{A} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & 2 \\ 2 & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

<解答例>

まず,  $\det \mathbf{A}$  を求める.  $\mathbf{A}$  をガウスの前進消去により 3 角行列に変形する.

$$\det \mathbf{A} = \begin{vmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & 2 \\ 2 & 0 & -1 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & -5 \end{vmatrix} = 5 \quad (48)$$

次に、余因子を求める．

$$\mathbf{A}_{11} = (-1)^{1+1} \begin{vmatrix} -1 & 2 \\ 0 & -1 \end{vmatrix} = 1 \quad (49)$$

$$\mathbf{A}_{12} = (-1)^{1+2} \begin{vmatrix} 0 & 2 \\ 2 & -1 \end{vmatrix} = 4 \quad (50)$$

$$\mathbf{A}_{13} = (-1)^{1+3} \begin{vmatrix} 0 & -1 \\ 2 & 0 \end{vmatrix} = 2 \quad (51)$$

$$\mathbf{A}_{21} = (-1)^{2+1} \begin{vmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{vmatrix} = 1 \quad (52)$$

$$\mathbf{A}_{22} = (-1)^{2+2} \begin{vmatrix} 1 & 0 \\ 2 & -1 \end{vmatrix} = -1 \quad (53)$$

$$\mathbf{A}_{23} = (-1)^{2+3} \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 0 \end{vmatrix} = 2 \quad (54)$$

$$\mathbf{A}_{31} = (-1)^{3+1} \begin{vmatrix} 1 & 0 \\ -1 & 2 \end{vmatrix} = 2 \quad (55)$$

$$\mathbf{A}_{32} = (-1)^{3+2} \begin{vmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} = -2 \quad (56)$$

$$\mathbf{A}_{33} = (-1)^{3+3} \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 0 & -1 \end{vmatrix} = -1 \quad (57)$$

これらを  $\text{adj} \mathbf{A}$  に代入し、 $\mathbf{A}$  の逆行列の式を求める．

$$\mathbf{A}^{-1} = \frac{1}{5} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 4 & -1 & -2 \\ 2 & 2 & -1 \end{bmatrix} \quad (58)$$